

## 第2回公開学術講演会が開催される



(4 ページに関連記事)

### 目次

一般ニュース	2	掲示板	16
文部科学省永年勤続者の表彰について、東京大学永年勤続者の表彰について、「本郷構内における異臭発生」に関する記者会見行われる		本郷地区構内における新警備体制について、平成14年度東京大学学術研究奨励資金による国際交流助成事業募集について、人間地球圏の存続を求める国際学術協力（仮称）（AGS）年次総会、WSC年次総会への参加募集、「教養学部報」第452（12月5日）号の発行、生産技術研究所で学術講演会「環境問題の視点からこれからの工学研究を考える」のお知らせ、第3回考古科学シンポジウム、保健センター・公開健康講座、2001年度スキー講習会の御案内、保健センター業務日程の変更について、年末年始の体育施設の受付業務、山上会館・山上会館龍岡門別館の休館について、ハラスメント相談所の業務休止について、広報センターの休館のお知らせ	
キャンパスニュース	4	窓	22
第2回公開学術講演会を開催、「第30回教官懇話会開催される」、平成14年度入試に伴う臨時措置（本郷関係）について、「オーバー・ドクター」及び「オーバー・マスター」の人数調査		高度技能者に贈られる「かわさきマイスター」を授賞	
部局ニュース	13	広報委員会	22
法学政治学研究科の留学生が府中刑務所・サントリー武蔵野ビール工場を見学、ホーキング博士の公開講演会が開催される、教育学部附属中等教育学校で総合教育棟落成式行われる、「第五回日本スペインシンポジウム」開催される、医科学研究所で動物慰霊祭行われる、東京大学外国人留学生後援会・第7回役員会開催される、平成13年度第2回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される		「淡青」第5号完成及びアンケートの実施について	
		事務連絡（人事異動）	23
		訃報（松村明名誉教授）	23
		淡青評論「既存不適格」	24

≡ 一般ニュース ≡

文部科学省永年勤続者の表彰について

本年度の文部科学省永年勤続者表彰で次の方々が表彰されました。

農学系事務部長	三澤昭博
教養学部等事務部長	有岡雅明
生産技術研究所事務部長	柳橋恒久
総務部人事課長	苫米地令
経理部主計課長	箱田規雄
先端科学技術研究センター事務長	前田高士
医学部附属病院医事課長	三枝広人
経済学部・経済学研究科事務長	鈴木昭美
教育学部・教育学研究科事務長	福忠弘
社会科学研究所事務長	佐藤國雄
生産技術研究所経理課長	真取秀明
海洋研究所経理課長	田中義國

東京大学永年勤続者の表彰について

平成13年度の東京大学職員永年勤続者表彰式が、11月22日（木）午前11時30分から本部庁舎12階大会議室において、総長、総長特別補佐、関係部局長、事務局長及び関係事務（部）長等が列席して行われた。

被表彰者90名には表彰状の授与並びに記念品が贈呈（代表 社会科学研究所 仲和子さん）され、総長の挨拶のあと被表彰者を代表して、経理部 成井和男さんから謝辞が述べられた。

なお、本年度表彰された方々は次のとおりです。

総務部	茅根修
	増田浩一
経理部	石井好和
	成井和男
施設部	石橋格司
	齋藤修一

学生部  
 附属図書館  
 アイソトープ総合センター  
 先端科学技術研究センター

情報基盤センター  
 医学部・医学系研究科  
 大学院医学系研究科  
 医学部附属病院

佐藤功  
 高梨芳郎  
 藏野由美子  
 瀧上由美子  
 小林慶子  
 高島章寿  
 中村昇平  
 高野米孝  
 小林 臻  
 青山隆夫  
 坪源洋  
 請田早苗  
 臼井英子  
 内田美保  
 嘉数美恵子  
 小笠原昭子  
 叶野憲子  
 氣賀澤和子  
 木村悦子  
 黒川陽介  
 佐藤博子  
 末武伸往一  
 清野敏一  
 宅井よし夫  
 千葉栄夫  
 土屋澄子  
 粒良邦彦  
 傳忠司  
 戸恒香苗  
 富山廣子  
 中尾哲也  
 福田 実  
 松井千恵子  
 三浦勝広  
 柳澤公恵  
 山田實恵子  
 内田千代美  
 小森谷三枝子

工学系研究科等



佐々木総長から表彰状を受ける仲和子さん



佐々木総長に謝辞を述べる成井和男さん

## 「本郷構内における異臭発生」に関する記者会見行われる

平成13年11月21日（水）、七徳堂（武道館）、医学部国際共同実験棟周辺において、異臭が発生し、9名の本学助手、学生が病院で処置を受ける（内2名入院）事故が起こった。

原因は、医学部法医学教室において、解剖を行った際の排水を殺菌するため、次亜塩素酸ナトリウムを使用し、チオ硫酸ナトリウムによって中和した後、排水を行っているが、排水処理装置の不具合が生じ、中和されず排水されたことにより、異臭が発生したと考えられる。

この件について、平成13年11月26日（月）医学図書館において、宮島安全対策室長（副学長）、廣渡総長特別補佐、桐野医学系研究科長、吉田医学系研究科教授が出席し、記者会見が行われた。

記者会見では、宮島安全対策室長より、今後の対応について、「今回のような事故が起こったことは非常に残念であり、被害にあった方々には、心よりお詫び申しあげたい。今後の対応については、安全装置の何重かのチェックを行うような装置の改良を行う。これには、1～2週間かかるが、安全性を確保できるまでは法医学教室での解剖は中止する。また、各部局においても排水処理装置などの管理をしっかりと行うように全学に周知する予定である。」旨の発言があった。



工学部・工学系研究科	瀧澤正順
	高橋登
	横田明
工学部附属総合試験所	西村芳治
文学部・人文社会系研究科	手代絹子
	富山三弘
理学系研究科等	兒玉晃一
	佐藤恵子
	新谷晶子
大学院理学系研究科	土田淳美
	平井一則
	山本隆
農学系	高田益子
大学院農学生命科学研究科	漆畑君代
	岡村行治
	増田元
経済学部・経済学研究科	佐野智典
大学院経済学研究科	藤澤敦子
	村松敏哉
教養学部等	伊藤嘉朗
	國田博文
	島田淳子
	菅沼諭
	中島教雄
薬学部・薬学系研究科	高橋喜博
医科学研究所	新井忠
	岩井祐一
	榎本達也
	古田隆久
地震研究所	茂木孝子
	伊東晃
	内田正之
	辻浩
社会科学研究所	竹村三和子
	仲和子
社会情報研究所	宁堅勤
生産技術研究所	小峰久直
	西岡政雄
	谷田貝悦男
史料編さん所	亀原弥生
	永嶺重敏
物性研究所	馬場基芳
柏地区	浅野耕二
	杉田佳代子
海洋研究所	中村晃三
	西舘慎太郎

（五十音順）

## ≡ キャンパスニュース ≡

## 第2回公開学術講演会を開催

「昴さざめく小夜一思索の森へ」と題した第2回東京大学公開学術講演会が、平成13年11月30日（金）午後5時30分から本郷キャンパス大講堂（安田講堂）において開催された。

講演は、本年度紫綬褒章を受章した坂部恵大学院人文社会系研究科名誉教授による「精神の危機—ヨーロッパと日本」、昨年度フランス学士院ランティエ賞を受賞した松村剛大学院総合文化研究科助教授による「フランスの中世末期の武勲詩」、本年度紫綬褒章を受章した榊裕之生産技術研究所教授による「ナノ世界の電子の魅力と威力」のテーマで行われた。

高校生から中高年まで幅広い年齢層の約400名の参加者があり、各講演を熱心に聴講し、好評であった。

なお、今回は初めての試みとしてインターネットによるライブ中継を行った。

次回の公開学術講演会は来夏に開催する予定である。



## 「第30回教官懇話会開催される」

第30回教官懇話会は『東京大学における「教育改革」（学部教育）のあり方について』をテーマとして12月3日（月）午後6時から、山上会館地階食堂において開催された。

今回の教官懇話会のテーマは、東京大学の教育を取り巻く環境の変化とその影響、それに対する対応策の試みの紹介・評価などを自由な立場で交流し合うことを趣旨として設定された。

最初に主催者である（財）東京大学総合研究会の理事長の代理として宮島副学長から挨拶があり、小間副学長の司会の下に5人の講師の方々から問題提起をいただいた。

まず苅谷剛彦教授は、教育改革、特に高校のカリキュラム改革などの影響を受けて東大入学者の履修科目が変化し、東大生の構成が私立高校・中高一貫教育修了者に傾斜して来ている傾向などを指摘され、教員側が学生の

履修歴を知らずに授業を行っている事実等、学部教育の改革を論じる際に考慮に入れなければならない基礎的事実について言及された。

石浦章一教授は、教養学部前期課程の全授業を対象に実施された「学生による授業評価」の結果を解説・論評され、アンケートの実施に際しては種々の慎重論もあったが、実施した結果として学生の授業に対する満足度を規定する諸事情の解明など、今後の授業改革に生かすことができる貴重な知見が得られたことを具体的に紹介された。

河合文化教育研究所の丹羽健夫所長は、予備校生の近年の変化として、教えられることをそのまま正しいこととして効率的に得点を得る「理解型」の受験生が成績上位者の大半を占めるようになったことを指摘され、入試制度の改革によってそうした傾向の進行を修正し、「納得型」の受験生が入りやすい方式を検討すべきことを主張された。

工学系研究科の藤原毅夫教授は、工学部において検討されてきた学部教育改善の努力の内容を説明され、能力と意欲を持った入学者の学習意欲を方向付けるために、「教員個人ではなく組織としての体制が必要である」との合意に立って新設された「工学教育プロジェクト室」の仕組みについて説明された。

数理学研究科長でUT21教育体制検討委員会副委員長である岡本和夫教授は、学部教育改革の討議の際の基本視点として、大学が教育機関であることの再認識が重要であること、IT技術発展にともなう教育面での対応（e-learning）が必要であることなどを提起された。

以上の問題提起を受けて参加者から活発な議論が展開された。フロアからの発言では、文部科学省が「ゆとり教育」方針を改めない理由は何か、入試制度の改善としてはどのような方策があり得るかなど、各講師の発言に対する質問が出された。さらに参加者からのコメントとして、学生による授業評価の結果を授業改革に生かすことの難しさ、外部評価における学部教育に関する指摘の特徴、学部段階で教授しなければならない事項が急増している事実、教育面の努力に酬いる処遇システムは可能か（あるいは必要か）といった諸論点が指摘された。

なごやかな雰囲気の中にも各学部で抱えている問題点を反映し、62名の参加者を得て、予定時間を超えて活発な議論が行われた。

総長補佐（社会科学研究所教授） 加瀬 和俊  
総長補佐（物性研究所教授） 家 泰弘

## 平成14年度入試に伴う臨時措置（本郷関係）について

I 平成14年度大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）の実施に伴う入構制限等の臨時措置（本郷関係）について

平成14年度の大学入試センター試験（平成14年1月19日（土）・20日（日））及び第2次学力試験 前期日程（平成14年2月25日（月）・26日（火）・27日（水））の実施のため、次のとおり入構制限等の臨時措置をとることとする。ただし、2月27日（水）は、法文1・2号館（文学部）及び山上会館の建物について、入館制限等の臨時措置をとることとする。

### 1. 授業の休止

#### (1) 大学入試センター試験

平成14年1月18日（金）

……………試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

#### (2) 第2次学力試験（前期日程）

平成14年2月22日（金）

……………試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成14年2月25日（月）・26日（火）

……………試験当日のため、授業は休止する。

### 2. 試験場区域

試験場区域を次のとおり設定する。

(1) 本郷区域（本郷構内から本部庁舎・附属病院・第二食堂建物・環境安全研究センターを除く区域）

(2) 農学部区域（弥生キャンパスから地震研究所・農学部グラウンド・野球場を除く区域）

(3) ただし、大学入試センター試験にあつては、「(1) 本郷区域」のみとし、(1)及び(2)の区域に通じる陸橋は封鎖する。

### 3. 入構制限等

#### (1) 入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は入構できるが、その他の者の試験場区域への入構は禁止する。

なお、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

#### (2) 「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

①「本学教職員」……………「身分証明書」

※「入試実施本部関係教職員」は、「入試統一腕章」を着用する。

②「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」……………「学生証・研究生証」

③「特に入構を許可された者」…「入試特別入構証」

※「入試特別入構証」は、大学入試センター試験用及び第2次学力試験（前期日程）用の2種類とする。

#### 4. 試験場区域への入・出構は、次によるものとする。

##### (1) 本郷区域

①「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

正門、赤門、弥生門及び薬学部角・理学部化学館角・第二食堂前臨時ゲート

##### ②「受験者」

正門、弥生門及び薬学部角・理学部化学館角・第二食堂前臨時ゲート

なお、赤門からの入構は、正門の混雑時及び雨天・降雪時に限り中央実施本部の判断により使用する。

##### (2) 農学部区域

①「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」

農正門及び南門

##### ②「受験者」

農正門

(3) 上記の各門及び臨時ゲート以外からの立ち入りを禁止する。

なお、龍岡門及び池之端門は平常通りとする。

### 備考

#### 1. 報道関係者等

「報道関係者等」は、腕章による識別ではなく、広報委員長の発行する「入試特別入構証」により入構を認める。

なお、報道関係者等への対応は広報委員長を通じて行う。

#### 2. その他

(1) 試験場区域への車両による入・出構は、原則として認めないが、やむを得ない事由のある者の入・出構は、薬学部角・第二食堂前臨時ゲート及び弥生門・農正門とする。

(2) 附属病院の業務は平常通りとなっており、附属病院の業務に関連して、試験場区域に入構する必要がある場合には、「教職員」については「身分証明書」、「学生・研究生」については「学生証・研究生証」、「その他の者」については「入試特別入構証」を必ず提示すること。

### II 平成14年度第2次学力試験（後期日程）の実施に伴う入館制限等の臨時措置（本郷構内）について

第2次学力試験 後期日程（平成14年3月13日（水）・14日（木））の実施のため、次のとおり入館制限等の臨時措置をとることとする。

#### 1. 授業の休止

第2次学力試験（後期日程）

平成14年3月12日（火）

……………試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成14年3月13日（水）・14日（木）

……………試験当日のため、授業は休止する。

#### 2. 試験場

法文1・2号館、経済学部、工学部2・5・8号館

及び山上会館

### 3. 入館制限等

試験当日は、試験場を設定した当該建物への「受験者」及び「入試関係教職員」以外の立ち入りは原則として禁止する。

### 4. 試験場への入館

「受験者」及び「入試関係教職員」の出入口については、各建物の指定された場所とする。

備考

#### 1. 報道関係者

報道関係者の入館及び構内での取材については、広報委員長を通じて行う。

## 「オーバー・ドクター」及び「オーバー・マスター」の人数調査

大学院学生委員会と学生部では、昭和48年以来、毎年10月1日現在で「オーバー・ドクター」及び「オーバー・マスター」の人数調査を行い、その結果を学内広報に発表してきた。平成13年度も平成12年度と同様に、本学の博士（修士）課程出身者の在学状況を男・女別に集計した。

いわゆる「オーバー・ドクター」及び「オーバー・マスター」については、今なお明確な定義は存在しないが、従来同様つぎのように分類した。

#### 1. 博士（修士）の学位取得者

博士（修士）の学位を取得して同課程を修了し、学部・研究科若しくは研究所の研究生となっている者。

#### 2. 博士（修士）の学位未取得者

博士（修士）の所定の単位を取得したが、学位を取得せず退学し、現在、学部・研究科若しくは研究所の研究生となっている者。

#### 3. 博士（修士）課程在学者

博士（修士）課程に標準修業年限を超えて在籍している者。

平成12年度から、参考として外国人学生及び日本学術振興会特別研究員（PD）の人数調査を行い、また、課程在籍者数との比較参考用に調査当初からの各年度の課程受け入れ学生数推移と「オーバー・ドクター」、「オーバー・マスター」の人数推移を並べグラフ化を行っている。

なお、前回の調査結果は「学内広報」No. 1,205 (01.

1. 9) に発表されている。

H13.10.1現在

### オーバー・ドクター、オーバー・ドクター・マスターの人数調査

#### オーバー・ドクターの人数

1. 学部研究生・研究科研究生として研究中の者及び博士課程在学者（※網かけは外国人学生数で外数）

(1) 博士の学位取得者（学位取得後の年数別）

	人文社会		教育		総合		理学		工学		農学		数理学		新領域創成科学		学振二学府		情報理工学		12年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計
1年未満	1	0	0	0	6	0	4	4	2	4	0	0	6	7	7	0	0	0	0	10	3	22
1年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年未満	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	5	5	5	0	0	0	0	9	2	11
2年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0
3年未満	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5	1	6	4
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	3	1	4
小計	0	1	0	1	6	0	7	7	8	9	2	5	14	15	15	0	0	0	36	7	43	31

(2) 博士の学位未取得者（研究科退学後の年数別）

1年未満	5	2	5	7	1	2	2	4	1	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	10	12	22	17
1年以上	1	2	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5	3
2年未満	0	1	1	2	2	3	2	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	10	2	12	6	
2年以上	1	2	3	5	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	7	1	
3年未満	1	1	2	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1	
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
小計	8	9	13	22	5	5	5	7	8	9	2	1	1	1	1	1	1	0	24	14	38	35	

(3) 博士課程在学者（編修修業年限を超えて在学中の者（編修修業年限を超えた年数別）

1年未満	44	29	73	111	18	13	31	53	3	56	49	3	52	30	11	4	12	1	13	3	4	4	0	0	25	85	338	
1年以上	6	10	16	23	4	9	13	1	20	3	23	1	2	1	2	1	2	0	0	3	27	64	79	0	0	37	27	64
2年未満	14	9	23	32	5	11	16	25	2	25	4	12	5	3	8	3	4	1	5	0	0	0	0	0	98	35	134	
2年以上	3	4	7	11	2	2	4	6	1	7	8	1	9	0	1	1	0	0	0	20	16	36	54	0	0	20	16	36
3年未満	0	0	0	0	0	5	7	12	1	4	3	7	0	0	0	2	2	0	0	12	10	22	32	0	0	12	10	22
3年以上	0	0	0	0	0	4	10	14	2	5	1	6	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	8	0	0	4	1	5
小計	58	38	96	142	23	42	57	84	7	84	79	11	90	38	15	5	17	4	2	6	6	10	1	0	0	373	141	514

(4) (1)~(3)の合計

合計	58	44	102	127	21	33	44	67	7	70	62	15	62	76	31	10	23	2	23	33	46	21	0	0	433	162	599	604
----	----	----	-----	-----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	---	---	-----	-----	-----	-----

(参考1) 日本学術振興会特別研究員（P.D.）（外数）

合計	54	11	11	13	4	4	26	5	5	16	16	35	19	4	14	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	263	240
----	----	----	----	----	---	---	----	---	---	----	----	----	----	---	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	-----

(参考2) 平成13年度博士課程修了予定人員

合計	131	131	35	60	54	164	286	430	430	219	46	32	155	45	1830	1664
----	-----	-----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-----	----	------	------

2. 研究所研究生として研究中の者（※網かけは外国人学生数で外数）

(1) 博士の学位取得者（博士の学位取得後の年数別）

	医学		理学		工学		農学		社会科学		社会情報		生体技術		資料学		分子細胞生物学		宇宙		先端科学技術		小計		12年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
1年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1年以上 2年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年以上 3年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 博士の学位未取得者（研究科退学後の年数別）

1年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1年以上 2年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年以上 3年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) (1)～(2)の合計

合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	4	2	2	6	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

(参考1) 日本学術振興会特別研究員(PD) (外数)

3. オーバー・ドクターの年度別総数(外国人学生については外数で平成12年度から)

年度	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73		
博士課程学生、学部・研究科研究生 (外国人学生数)	255	284	302	365	396	370	370	376	354	352	351	298	338	347	335	263	227	255	256	254	287	299	336	435	541	537	604	595
研究所研究生 (外国人学生数)	19	20	35	37	29	25	25	24	26	19	22	24	25	21	14	13	10	9	10	7	12	8	6	6	7	8	4	3
合計	274	304	337	402	425	395	395	400	380	371	373	322	363	368	349	276	237	264	266	261	299	307	342	441	548	545	608	598
外国人学生数																												
外国人学生数																												



オーバード・マスターの人数

1. 学部研究生・研究科研究生として研究中の者及び修士課程在学者（※網かけは外国人学生数で外数）

H13.10.1現在

(1) 修士の学位取得者（学位取得後の年数別）

	人文社会		教育		法政		経済		総合		理学		工学		農学		医学		薬学		数理科学		新領域創成科学		情報理工学系		学環・学府		小計		12年度		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
1年未満	0	5	16	2	1	3	0	0	0	1	2	0	2	1	3	6	3	9	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24	13	37	28
1年以上 2年未満	2	2	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7	
2年以上 3年未満	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	
小計	11	5	16	2	1	3	0	0	1	2	3	0	2	2	4	6	3	9	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	27	18	45	33	
	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	3	9	11		

(2) 修士の学位未取得者（研究科退学後の年数別）

1年未満	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
1年以上 2年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
2年以上 3年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	4	

(3) 修士課程在学者（標準修業年限を超えて在学中の者（標準修業年限を超えた年数別）

1年未満	40	18	58	6	4	10	8	4	12	7	15	11	26	22	1	23	28	4	32	7	2	9	0	0	6	17	17	0	0	0	157	44	201	251
1年以上 2年未満	3	1	4	0	0	1	1	0	0	0	1	3	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	8	5	13	11
2年以上 3年未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	1	7	1	8	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	15	4	19	13	
3年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	43	19	62	6	4	11	4	4	12	7	16	14	35	23	1	24	35	5	40	8	3	11	0	0	6	17	0	17	0	172	52	224	271	
	3	1	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	5	13	13	

(4) (1)~(3)の合計

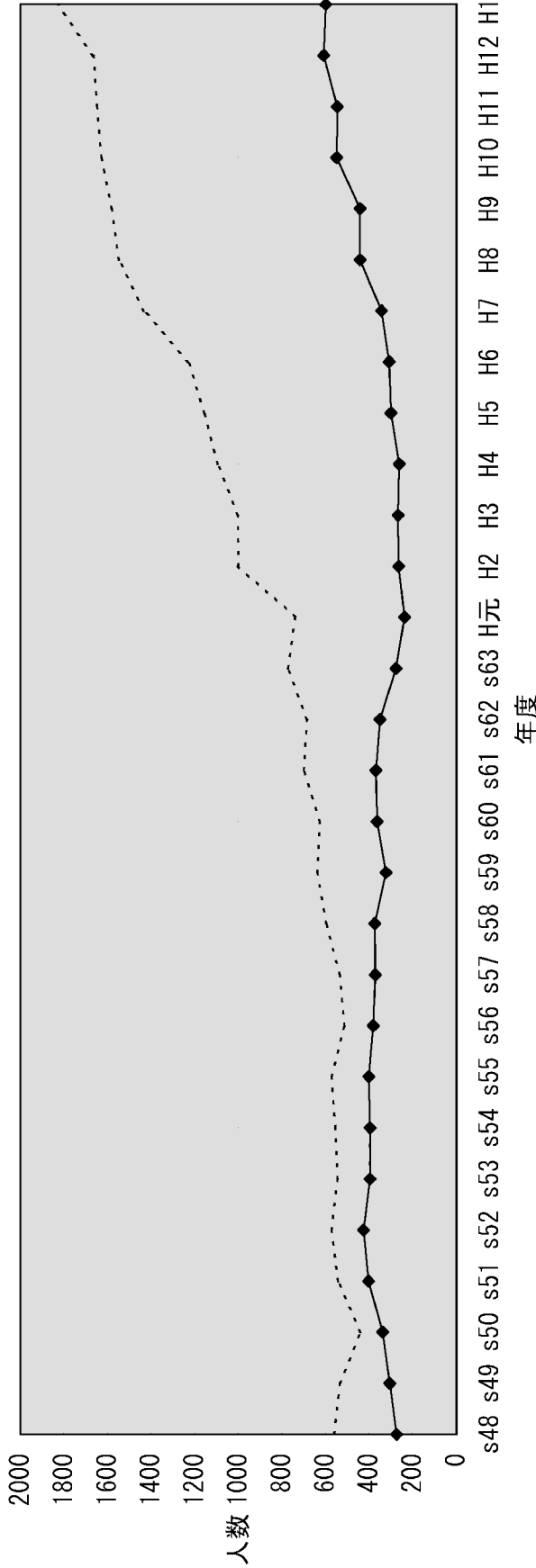
合計	52	23	75	8	5	13	8	4	12	8	0	8	19	19	38	23	1	24	39	7	46	14	6	20	0	12	0	17	0	170	70	272	307
(参考)平成13年度修士課程受入予定人員	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	0	0	0	8	2	10	0	0	0	0	2	1	3	0	17	9	26	24
合計	20	20	54	143	109	248	448	86	344	79	8	53	364	49	154	3140	2877																



H13. 10. 1現在

オーバー・ドクターの年度別総数

—◆— オーバー・ドクター総数  
 ..... 受入予定学生数 (平成元年度までは入学者数)



年度	s48	s49	s50	s51	s52	s53	s54	s55	s56	s57	s58	s59	s60	s61	s62	s63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13
博士課程在学者、学部・研究科研究生	255	284	302	365	396	370	370	376	354	352	351	298	338	347	335	263	227	255	256	254	287	299	336	435	435	541	537	604	595
(外国人学生数)																												160	126
研究所研究生	19	20	35	37	29	25	25	24	26	19	22	24	25	21	14	13	10	9	10	7	12	8	6	6	6	7	8	4	3
(外国人学生数)																												1	0
オーバー・ドクター総数	274	304	337	402	425	395	395	400	380	371	373	322	363	368	349	276	237	264	266	261	299	307	342	441	441	548	545	608	598
(外国人学生数)																												161	126
受入予定学生数 (平成元年度までは入学者数)	560	534	438	543	572	546	555	573	513	534	597	638	625	700	685	773	739	1000	1001	1095	1155	1227	1433	1548	1581	1628	1648	1664	1830

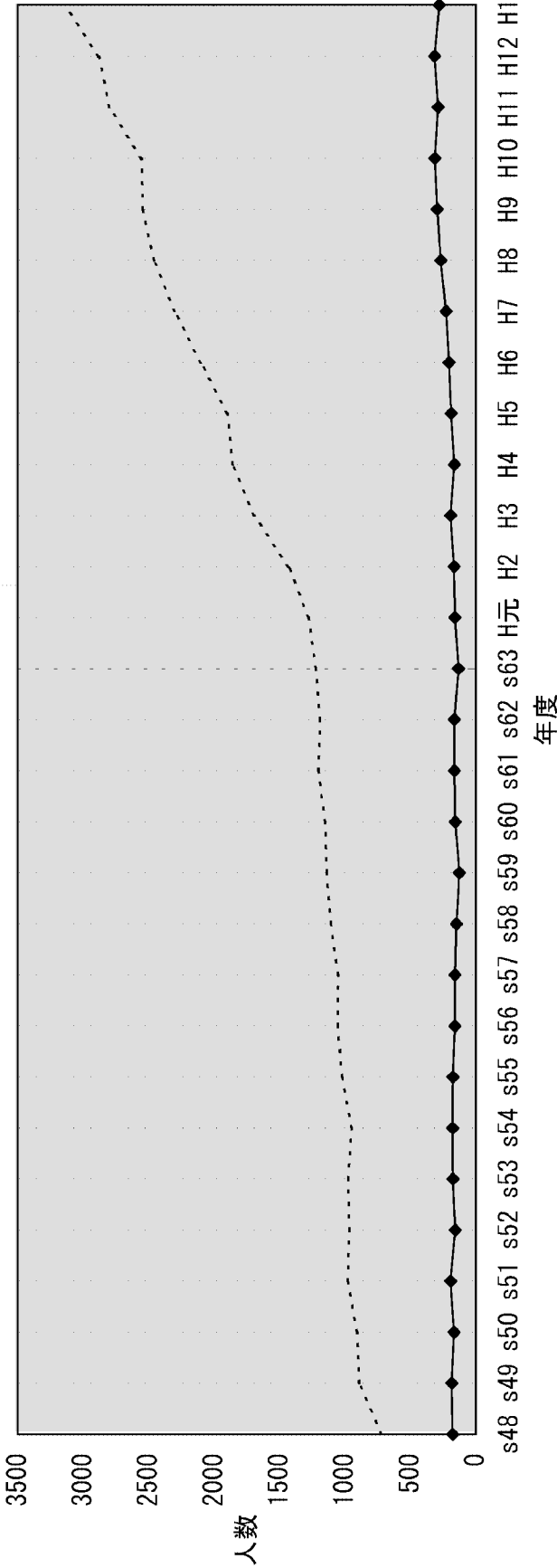
(※外国人学生については外数で平成12年度から)

H13. 10. 1現在

オーバー・マスターの年度別総数

—◆— オーバー・マスター総数

..... 受入予定学生数 (平成元年度までは入学者数)



年度	s48	s49	s50	s51	s52	s53	s54	s55	s56	s57	s58	s59	s60	s61	s62	s63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13
修士課程在学者、学部・研究科研究生 (外国人学生数)	172	178	156	184	153	164	170	168	154	156	140	122	152	157	158	128	149	160	189	159	183	200	220	257	283	302	281	307	272
研究所研究生 (外国人学生数)	3	3	8	6	1	7	5	4	1	1	4	0	2	3	3	2	6	3	2	1	3	2	3	8	8	7	4	5	3
オーバー・マスター総数 (外国人学生数)	175	181	164	190	154	171	175	172	155	157	144	122	154	160	161	130	155	163	191	160	186	202	223	265	291	309	285	312	275
受入予定学生数 (平成元年度までは入学者数)	714	889	904	977	966	974	945	1020	1055	1049	1107	1139	1149	1201	1190	1220	1276	1426	1692	1857	1897	2099	2299	2458	2545	2552	2799	2877	3140

(※外国人学生については外数で平成12年度から)

## ≡ 部局ニュース ≡

## 法学政治学研究科の留学生が府中刑務所・サントリー武蔵野ビール工場を見学

11月9日（金）、大学院法学政治学研究科在籍の外国人14名（留学生13名、研究員1名）が、府中刑務所・サントリー武蔵野ビール工場を見学した。

最初の訪問先、府中刑務所では、刑務所の組織や受刑者の処遇について説明を受けた後、所内各施設を案内し



府中刑務所 石渡調査官より説明を受ける



サントリー武蔵野ビール工場での集合写真



サントリー武蔵野ビール工場で説明に耳を傾ける留学生

てもらった。大多数の者は、刑務所を訪問するのが初めてだったため、強い興味を示し、担当者に積極的に質問していた。

その後、サントリー武蔵野ビール工場を見学し、ビールの製造過程と環境保全の取り組みについて説明を受けた。最後は、お待ちかねのできたてビールの試飲。緊張感もほぐれて、ほっと一息ビール片手に楽しく談笑をした。

貴重な体験を通じて、参加者の日本に対する理解が一層深まり、10月入学の新入生も仲間うち解け、有意義な見学会となった。

（大学院法学政治学研究科）

## ホーキング博士の公開講演会が開催される

11月13～16日、山上会館で国際研究集会“New Trends in Theoretical and Observational Cosmology”（理論的および観測的な宇宙論の新しい潮流）が、理学系研究科の初期宇宙研究センター、および同研究科附属ビッグバン宇宙国際研究センターにより開催された。前者は科研費COEプログラム「初期宇宙の研究」（リーダーは佐藤研究科長）にもとづき1995年度に発足した組織、後者はそれを母体に1999年度に発足した10年時限の省令施設である。このCOEプログラムは今年度で7年間（2年の延長を含む）の研究期間を完了し、今回のシンポジウムはその5回目かつ総まとめの集会として開催された。海外からの約30名を含め、延べ170名の参加者を得て、21世紀の宇宙論の動向について熱い討議が交わされた。16日17時から、参加者の1人スチーブン・ホーキング博士（英国ケンブリッジ大学教授）による公開講演会“Brane New World”（ブレインの概念に基づく新しい宇宙創生の理論）が安田講堂にて行なわれた。開演の3時間も前からでき始めた聴衆の列は正門まで延び、2000名を越したため、約500名には入場をお断わりせざるをえなかった。マスコミからも大きな関心が寄せられた。<http://www-utap.phys.s.u-tokyo.ac.jp/~trend/trend.html>を参照されたい。



山上会館のシンポジウムで講演するホーキング博士。

## 教育学部附属中等教育学校で総合教育棟落成式行われる

教育学部附属中等教育学校（三浦逸雄校長）は、総合教育棟の完成を祝し、11月21日（水）午前9時30分から落成式、公開授業及び祝賀会を催した。

落成式では、三浦校長が「中等教育学校への移行と総合教育棟の建設に至る経緯、そして総合教育棟の役割を明らかにしたい」とする式辞を述べた。

次いで、藤田教育学部長が、「この総合教育棟の落成に教育学部として大きな期待を持っていること、また附属学校の生徒一人ひとりがこの学校で過ごしてよかったと思えるような教育を目指してほしい」と述べた。さらに小間副学長が「『臨床心理入門』や『図書館情報学入門』など大学との連携による附属学校の教育に注目しているので、今後総合教育棟を活用してほしい」と祝辞を述べた。

また、来賓祝辞として当日出席を予定されていたが参議院の議会出席と重なり来られなくなった参議院議員（元東大総長）有馬朗人氏からのメッセージが紹介された。

この落成式には、坂本事務局長、菊池総務部長など総合教育棟の完成にお世話になった事務局の方々、本校教職員及び生徒約750名が出席した。

落成式の後、総合教育棟において、公開授業として5年生の「国語と情報の授業」、3・4年の課題別学習「電卓で科学する」及び2年の総合学習「表現」が行なわれた。「国語と情報」では、教育後援会から寄附された0A・視聴覚室の42台の液晶型デスクトップパソコンを使い、また「電卓で科学する」は2階の小教室で、総合学習「表現」は「明るく元気に」というテーマをグループ毎にダンスで表現する授業で4階の多目的ホールを使って行なわれた。これらの授業は、小間副学長をはじめ東大本部の方々と藤田学部長や本校の100名を越す保護者が見学した。

公開授業の後に教職員、保護者による祝賀会が行われた。祝賀会では藤田教育学部長、浦野前校長の挨拶に続き武藤評議員の発声により乾杯し、終始盛会で午後2時過ぎに終了した。



5年生の「国語と情報の授業」の授業風景  
（教育学部附属中等教育学校）

## 「第五回日本スペインシンポジウム」開催される

フランシスコ・ザビエルの渡日により始まる日本・スペイン両国の交流は鎖国により長く途絶えていた。標記シンポジウムは両国の交流を高めるため、両国外務省主催により数年前より毎年開催されている。今回は11月21日と22日、サラマンカ大学(1218年創立)の美智子妃ホールにて開催され、日本代表団の一員として本学薬学系研究科今井一洋教授が参加し、両国の自然科学分野での大学間学術交流について自身の体験を交えて発表し、その重要性を強調した。



シンポジウムの一場面（左より今井教授、バルシア元駐日大使、サラマンカ大学アルフォア教授）  
（大学院薬学系研究科）

## 医科学研究所で動物慰霊祭行われる

11月15日（木）午前11時00分から、医科研敷地内の動物慰霊碑前で、平成13年度動物慰霊祭が執り行われた。

医科研では、数多くの動物が研究・実験用として供され、医科学研究の発展に大きく寄与している。

当日は、新井賢一所長の挨拶、甲斐知恵子実験動物研



動物慰霊碑前で献花する新井所長（右）と甲斐実験動物研究施設長（左）

究施設長の報告に引き続いて、参列者が動物の霊に思いをいたし、献花を行った。

動物を利用した研究に従事する研究者を中心に200名を越える教職員等が参列し、滞りなく終了した。

## 東京大学外国人留学生後援会・第7回役員会開催される

「東京大学外国人留学生後援会」の第7回役員会が、平成13年11月13日（火）に本部庁舎5階特別会議室で開催され、留学生への支援活動の充実を図るため、本年10月採用の後援会奨学生採用者数を10名から20名に増やすこと等を決定しました。これにより、平成13年度の本会奨学生採用者数は、霞ヶ関ライオンズクラブ及び吉田育英会からの寄付を財源として採用する奨学生を含め、合計36名となりました。

平成13年11月1日現在、本学に在籍する外国人留学生は2,071名（うち私費留学生1,243名）ですが、私費留学生の半数近くが奨学金等の経済的な支援を受けていない現状であり、本後援会の各種事業活動の拡充が必要であることから、本学教職員の方々の一層の加入が望まれるところです。

問い合わせ先

東京大学外国人留学生後援会事務局（研究協力部留学生課留学生第二掛内・内線22372）

（東京大学外国人留学生後援会）

## 平成13年度第2回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される

平成13年度第2回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」が、去る11月29日（水）午後4時20分から、本会関係者、部局代表者、指導教官等臨席の下に留学生センター会議室（理学部5号館5階）で開催されました。

平成10年7月に設立された東京大学外国人留学生後援会は、「本学における留学生交流を促進するため、本学留学生への経済的支援、留学生と教職員・地域社会との交流促進、本学派遣の日本人学生が事故等に遭った場合への援助等を行うこと」を目的として活動してきましたが、このたび第6期奨学生20名（月額5万円・支給期間：平成13年10月～平成14年3月）及び財団法人吉田育英会からの寄付金による吉田育英会奨学生4名（25万円を一括支給）が決定され、当日は会長である佐々木総長より奨学生へ一人ずつ、奨学生証書が手渡されました。

次いで、佐々木会長より「本年度後期の奨学生採用者数が10名から20名に倍増されたこと、また、本奨学金が、教職員、卒業生等の方々善意によるものであるので、

奨学生となった誇りを持って研究・勉学に励んでほしい。」との挨拶があり、その後、奨学生を代表して、大学院農学生命科学研究科・アスリ ペニ ウランダリさんと大学院工学系研究科・テン ウシヨウさんより「皆さんの期待に答えられるように研究・勉学に励む」旨の感謝と決意の言葉が述べられました。

平成11年度以来、本後援会奨学生として60名、霞ヶ関ライオンズクラブ奨学生として5名、及び吉田育英会奨学生として4名の奨学生を採用することができましたのは、多くの教職員等会員の方々のご協力の賜物であるとして、東京大学外国人留学生後援会では心から感謝の意を表明するとともに、本学の私費留学生の現状を考えると本後援会活動の拡充が必要であることから、本学教職員の方々の一層の加入が望まれるところです。

問い合わせ先

東京大学外国人留学生後援会事務局（研究協力部留学生課留学生第二掛内・内線22372）



（東京大学外国人留学生後援会）

≡ 掲示板 ≡

## 本郷地区構内における新警備体制について

東京大学安全対策室  
室長（副学長）宮島 洋

11月14日付けNo.1224号の学内広報でお知らせしましたとおり、本郷地区構内における学生・教職員等の安全を確保するとともに、教育研究の場としての静謐な環境を保持するため、平成13年12月中旬から専門の警備会社に委託して、警備体制を整備する予定です。

警備の範囲は、本郷地区構内（病院地区を除き、浅野・弥生地区を含む。）の道路、広場等で、窃盗・暴行・恐喝等の事件、火災、不審者・不審物、無断駐車車両等を対象とします。

警備の方法は、警備車両及び徒歩による巡回、並びに正門、赤門、弥生門、農正門での開門時間中における立哨です。

警備員の服装等は、警備会社の制服を着用、身分証明書を標示、東京大学の腕章を着装し、警備車両には「東京大学構内巡視車」と標示して、赤色灯を回しながらの巡回となります。

学生・教職員の方々のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、事件・事故等の緊急時は現行どおり警備室「内線119」又は「5841-4919」に通報するか、各門衛所又は巡回中の警備員に連絡してください。

おって、本件に関してお気付きの点があれば、下記までご連絡ください。

（連絡先）学生部学生課長

電話：内線22501 ダイヤルイン5841-2501

e-mail：gakusei-k@adm.u-tokyo.ac.jp

Fax：内線22518 ダイヤルイン5841-2518

## 平成14年度東京大学学術研究奨励資金による国際交流助成事業募集について

下記要項のとおり募集しますので、平成14年1月15日（火）までに所属部局を通じ、研究協力部国際交流課国際学術掛まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当掛へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

1. 国際共同研究経費助成事業
2. 海外学術交流拠点設置・運営経費助成事業
3. 国際交流推進経費助成事業

4. 長期派遣経費助成事業
5. 若手研究者派遣経費助成事業

## 平成14年度 学術研究奨励資金による国際共同研究経費募集要項

### 1. 趣 旨

本学の教官が外国の研究者との間で行う特定の主題についての共同研究に対し、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

### 2. 応募資格

国際共同研究（計画）の代表者である本学の教授、助教授、講師及び助手

### 3. 助成の対象となる要件

(1) 本学の教官グループと外国の研究者グループとの間で組織的かつ複数年継続して行われる研究で、共同研究を行うことの意義が明確であり、成果が期待できるもの。

(2) 日本側の主要メンバーは本学教官とするが、必要に応じて次の者が参加しても差し支えない。

① 本学の大学院生

② 本学で研究する博士の学位を取得した者（ポストドクター）（人文・社会科学の分野にあっては、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められた者を含む。）

③ 他大学等の教官

(3) 研究の内容について、相手国側の研究代表者との間で事前協議が行われ、その目的と内容が明確であり、研究計画が具体的であるもの。

### 4. 助成経費

#### (1) 教官の派遣旅費

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

#### (2) 外国人研究者の招へい旅費

※招へい旅費：招へいする外国人研究者の本国における研究機関から本学までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

(3) 必要と認めた場合には調査研究費（消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、会議費、賃金、雑役務費等）

### 5. 助成額及び助成件数

(1) 1年度当たり、200万円以内とする。

(2) 助成件数は2、3件程度を予定している。

(3) 研究助成期間は2年以内とする。

### 6. 申請手続



別紙様式1により、平成14年1月15日（火）までに、所属部局内で選考の上、部局長から総長あて一件推薦すること（新規申請は、一部局一件）。継続申請については、別紙様式2の経費申請書を提出すること。

#### 7. 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成14年2月末日頃までに部局長あて通知する。

#### 8. 報告書の提出

本年度採択された共同研究（新規）については、別紙様式3により平成15年4月末日までに、所属部局長から総長あて提出すること。（なお、2年度目に継続する共同研究については、別紙様式4により研究助成期間終了後30日以内に同様に提出すること。）

#### 9. 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

### 平成14年度 学術研究奨励資金による海外学術交流拠点設置・運営経費募集要項

#### 1. 趣旨

国際化の進展に伴い本学における教育・研究の一層の推進に寄与するため、海外での教育・研究の推進、当該国の学術団体・高等教育研究機関との間の学術交流の調整・推進、本学の教職員・学生等関係者に対する便宜供与などの目的をもった海外における学術交流の基地となる海外学術交流拠点（以下、「海外拠点」という。）の設置・運営に対して、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

#### 2. 応募資格

海外拠点設置（計画）の代表者である本学の教授及び助教授

#### 3. 助成期間

3年以内（助成を希望する場合は、毎年度申請を行うものとする。）

#### 4. 助成経費

- (1) 海外拠点開設のための事前調査旅費
- (2) 海外拠点への教官の派遣旅費
- (3) 海外拠点運営経費（消耗品費、謝金、設備備品費、建物借料等執行可能なもの。）

※ (1)及び(2)の場合の旅費は、本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

#### 5. 助成額及び助成件数

- (1) 1海外拠点当たり、500万円以内とする。
- (2) 助成件数は2件程度を予定している。

#### 6. 申請手続

別紙様式1あるいは2により、平成14年1月15日（火）までに、所属部局長から総長あて提出すること。

#### 7. 選考及び採否の通知等

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成14年2月末日頃までに所属部局長あて通知する。

なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

#### 8. 報告書の提出

別紙様式3により、平成15年4月末日までに、所属部局長から総長あて提出すること。

なお、助成期間終了後、別途定める様式により報告書を提出すること。

#### 9. 申請書等送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

### 平成14年度 学術研究奨励資金による国際交流推進経費募集要項

#### 1. 趣旨

本学と海外の学術研究機関が行う大学間・部局間の組織的な交流を一層促進することを目的に、教官の派遣及び招へいについて、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

#### 2. 応募資格

本学の教授、助教授、講師及び助手

#### 3. 実施期間

- ①平成14年4月から平成14年9月までの間、及び、
- ②平成14年10月から平成15年3月までの間に実施されるもの。

#### 4. 助成経費

本学の教官の派遣旅費及び外国人研究者の招へい旅費とする。原則として10日以内とする。

※ 派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

※ 招へい旅費：招へいする外国人研究者の本国における研究機関から本学までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

#### 5. 申請手続

別紙様式1により、①の期間については平成14年1月15日（火）までに、②の期間については平成14年7月1日（月）から平成14年7月26日（金）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は順位を付した上で提出のこと。

#### 6. 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は①については平成14年2月末日頃までに、②

については平成14年9月下旬頃までに、所属部局長あて通知する。

7. 報告書の提出

別紙様式2により、交流実施後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

8. 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

平成14年度 学術研究奨励資金による長期派遣経費募集要項

1. 趣旨

本学の教官が、海外の学術研究機関において長期研究を行うために、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

2. 申請資格

平成14年4月1日現在年齢36歳以上50歳未満の本学の教官

なお、文部科学省在外研究員、日本学術振興会海外特別研究員又は特定国派遣研究者事業により過去10年間に2ヶ月以上海外に派遣されたことのある者を除く。

3. 期間

平成14年4月1日から平成15年3月31日までの期間に出発するもので、原則として2ヶ月以上6ヶ月以内とする。

4. 助成経費及び助成件数

派遣旅費を助成し、助成件数は、2～3件程度を予定している。

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、日本国内空港施設使用料、滞在費（文部科学省在外研究員旅費単価表による日当、宿泊料）とする。

5. 申請手続

別紙様式1により、平成14年1月15日（火）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は順位を付した上で提出のこと。

6. 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は平成14年2月末日頃までに、所属部局長あて通知する。

7. 報告書の提出

別紙様式2により、渡航の終了後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

8. 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

平成14年度 学術研究奨励資金による若手研究者派遣経費募集要項

1. 趣旨

本学における学術研究の将来を担う若手研究者が、海外の優れた大学等学術研究機関を訪問し、発想や研

究方法の異なる外国人研究者との交流によって学問的刺激を受けることにより、国際的視野を持つ研究者の養成に資することを目的とする。このため若手研究者の派遣に対し、必要な経費の一部を学術研究奨励資金から助成するものである。

2. 申請資格

平成14年4月1日現在年齢35歳未満の本学の教官

3. 期間

①平成14年4月から平成14年9月までの間、及び、②平成14年10月から平成15年3月までの間に派遣されるもので、原則として15日以内とする。

4. 助成経費及び助成件数

派遣旅費を助成し、助成件数は、15件程度を予定している。

※派遣旅費：本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空運賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、鉄道等往復運賃（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（旅費法による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

5. 申請手続

別紙様式1により、①の期間については平成14年1月15日（火）までに、②の期間については平成14年7月1日（月）から平成14年7月26日（金）までに、所属部局長から総長あて提出すること。なお、申請が複数の場合は順位を付した上で提出のこと。

6. 選考及び採否の通知

選考は、学術研究奨励資金実施委員会が行い、採否の決定は①については平成14年2月末日頃までに、②については平成14年9月下旬頃までに、所属部局長あて通知する。

7. 報告書の提出

別紙様式2により、交流計画の終了後、速やかに所属部局長から総長あて提出すること。

8. 申請書等の送付先

研究協力部国際交流課国際学術掛

人間地球圏の存続を求める国際学術協力（仮称）（AGS）年次総会、WSC年次総会への参加募集

マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学、スウェーデンのシャルマース工科大学と本学はAGS活動を推進しておりますが、AGSの次回の年次総会が、2002年3月20日から23日にかけて、コスタリカのサンホセで開催されます。

一方、AGSでは大学院学生を中心としたWorld Student Community（WSC）が本年設立され、本学のStudent Community（UTSC）はその設立に中心的な役割を果たし、現在も活発な活動を展開しております。AGS年次総会時にWSC年次総会も開催されます。

AGSの活動にご関心をお持ちで、AGS年次総会、

WSC年次総会に参加を希望する本学学生に、旅費・滞在費を東京大学AGS研究会が助成することになりました。参加希望者は、下記のホームページ（日本語ヴァージョン）に掲載されている事項にしたがい、必要資料とともに電子メールでお申込みください。

AGSの活動にご関心をお持ちの方は、下記ホームページをご参照のうえ、是非UTSCに参加していただきたいと思ひます。

申し込み期限：平成13年12月21日（金）

ホームページ：<http://www.ags.esc.u-tokyo.ac.jp/utsc/>  
申し込み先：asao@esc.u-tokyo.ac.jp または、

students-core@ags.esc.u-tokyo.ac.jp

<問い合わせ先>

杉山（化学システム工学専攻）内線26876

浅尾（AGSコーディネーター）内線27937

## 「教養学部報」第452（12月5日）号の発行

——教官による、学生のための学内新聞——

大石紀一郎：国際コミュニケーションの「実習」・世界へ飛び出す「予習」——日独学生交流セミナーについて——

高田康成：中国の清華大学が英語カリキュラム視察のために駒場を訪問した

瀬地山角：三つの国籍を持つ娘と一緒に

鈴木啓二：ふたつの世界一周——1872年のグロバリゼーション——

<本の棚>

笹川 昇：浅島誠・野崎伸二共著『分子発生生物学 動物のボディ・プラン』

船曳建夫：藤井貞和著『国文学の誕生』

山本 巍：他者とは誰か

宮本久雄著『他者の原トポス 存在と他者をめぐるヘブライ・教父・中世の思索から』

<時に沿って>

加藤雄介：私の教養課程

田中伸一：Jack of all thumbs,but...

橋本幸士：関西人

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

（大学院総合文化研究科・教養学部）

生産技術研究所で学術講演会「環境問題の視点からこれからの工学研究を考える」のお知らせ

本研究所では、毎年「生研学術講演会」を開催し、工学研究・教育のあり方について議論を重ねています。

人間社会が発展し、我々の生活が向上することに伴い、多くのエネルギーが消費され、多種で多量の工業製品が生産されてきました。その結果として生み出される排出物が地球全体をも汚す規模になり、人々の生活まで脅かすようになってきたことは、今や万人の知るところとなっています。地球の物質やエネルギーが有限であることに気が付いた我々は、リサイクルや太陽エネルギーの有効利用を積極的に進めるようになってきました。また、二酸化炭素の排出量を規制することによって化石燃料の使用を抑制しようという国際的な動きもあります。さらに、汚染物質の産出を極力抑えた生産技術や生産工程の開発にも努力するようになってきました。昨今のこのような趨勢を踏まえて、企業が環境に配慮しながら工業生産を行うことはもはや常識となりつつありますが、工学研究を行う立場からも環境を考慮して推し進める必要があることは間違いありません。

そこで本研究所では、環境を睨んだこれからの工学研究を考えることを目的として、学術講演会を開催することにいたしました。環境を念頭に置いた工学研究の中で、環境評価で推し量る人類社会の持続可能性、地球規模の環境保持につながる資源リサイクルの研究、我々の生活に密着した騒音やシックハウスなどの具体的な問題、を取り上げたいと考えております。

環境というテーマを多種多様な工学研究者の視点に立って考えていくこの学術講演会に是非多数の方々が御参加になり、今後の研究や生活に役立てられることを願っております。

日 時 平成14年1月22日（火） 13時00分～17時20分  
場 所 東京大学生産技術研究所 第1会議室（B棟7階 Bw701）

講 演

安井 至

（東京大学生産技術研究所 教授）

「ライフサイクルアセスメントで測る持続可能性」

岸 利治

（東京大学生産技術研究所 助教授）

「コンクリート資源の循環利用」

加藤 信介

（東京大学生産技術研究所 教授）

「室内環境汚染」

加藤 千幸

（東京大学生産技術研究所 助教授）

「流体騒音の予測と低減」

石井 勝

（東京大学生産技術研究所 教授）

「LEMP—雷放電に伴う電磁界パルス」

なお、詳しくは、生産技術研究所庶務掛（内線56008, 9）までお問い合わせください。

（生産技術研究所）

## 第3回考古科学シンポジウム

日時：2001年12月15日（土）

場所：東京大学農学部 弥生講堂「一条ホール」

参加費；無料 要旨集；1000円程度

懇親会会場：学士会館 分館（本郷）

主催：原子力研究総合センター、総合研究博物館、埋蔵文化財調査室

12月15日	一 条 ホ ール	回 廊
9：50～10：00	開会挨拶：小林絃一（加速器分析研究所）	
10：00～10：40	『旧石器を科学する』 「捏造問題の現況と旧石器時代研究」 ：小野 昭（東京都立大学）	
10：40～11：20	「日本列島の旧石器時代人」 ：馬場悠男（国立科学博物館）	
11：20～12：00	「新しい日本旧石器時代研究の構築に向けて」 ：小田静夫（東京都教育庁）	
12：00～12：20	総合討論	
12：20～13：30	昼 休 み	13：00～14：00 ポスターセッション
14：00～14：50	「考古科学とDNA分析」：植田信太郎（東大理学系研究科）	
14：50～16：20	『考古科学・ケーススタディ； 東京大学弥生構内の方形周溝墓の総合的な研究』 「調査」：原 祐一（東大 埋蔵文化財調査室） 「墓の年代」：吉田 邦夫（東大 総合研究博物館） 「土壌分析」：橋本 真紀夫（パリノ・サーヴェイ） 「弥生土器」：篠原 和大（静岡大学 文学部） 「典型的な弥生ガラス」：小泉 好延（武蔵野文化財研究所） 「土器の紋様と玉類の穴」：丑野 毅（東大 総合文化研究科）	
16：20～16：30	休憩	
16：30～17：40	パネルディスカッション 『遺跡調査；発掘・分析・保存（現状と問題）』（吉田／小泉） 原 祐一、橋本真紀夫、岸田省吾（東大 工学系研究科）、戸田哲也（玉川文化財研究所）	
18：30～20：30	懇親会（学士会館分館）	

問い合わせ：吉田 邦夫 東京大学総合研究博物館  
内線22822 (gara@um.u-tokyo.ac.jp)

## 保健センター・公開健康講座

## 『海外旅行と病気』

講師：保健センター内科助手 藤沢道夫

日 時：平成13年12月21日（金）午後4時から

場 所：山上会館会議室001

問い合わせ先：保健センター健康管理室 内線22579

保健センターでは、海外旅行中の持参薬、帰国後の発熱、下痢等の相談を受けています。今回は海外旅行における病気、事故等の医療に係るリスクを総覧し、海外旅行先の医療情報の入手方法、そして病気のある人、観光ルートからはずれて行動する人等の注意する項目、帰国してから体調の悪い場合の対処方法を具体的にお話しします。

## 2001年度スキー講習会の御案内

運動会では、本年度も下記のとおりスキー講習会を開催します。

各回ともレベル別に班分けをし、指導者としての厳しい研修を受けたリーダーが、一人一人に丁寧なアドバイスを行います。4日間の講習でスキー技術の飛躍的向上を目指してください。

	日 程	場 所	定員	参加費	受付開始
第1回	1月3日 ～ 1月7日	菅平高原	35名	35,000円	12月5日～

※第2回については、日程等が未確定ですので、記載していません。

1. 日程等
2. 受付場所、時間

- 本郷：御殿下記念館モール階運動会受付窓口  
9時30分～12時00分、13時00分～16時00分
- 駒場：教養学部等学生課課外活動掛（4番窓口）  
9時00分～12時30分、13時30分～16時30分

3. 問い合わせ先  
学生部学生課体育第一掛（内線22509～22511）

## 保健センター業務日程の変更について

冬期休業に伴い、下記の期間、診療等の業務を一時中止いたします。

- 本郷支所 平成13年12月25日（火）から  
平成14年1月4日（金）まで
  - 駒場支所 平成13年12月25日（火）から  
平成14年1月8日（火）まで
  - 柏健康相談室 平成13年12月25日（火）から  
平成14年1月4日（金）まで
- （保健センター）

## 年末年始の体育施設の受付業務

体育施設の受付業務は12月27日（木）から1月6日（日）まで休止します。  
これに伴い、体育施設の使用及び受付は下表のとおり行います。

体育施設名	使用休止期間	予 約 受 付	
		対象期間	受付開始日
農学部及び二食横 テニスコート	12月27日(木)～ 1月4日(金)	1月5日(土)～ 1月13日(日)	12月21日(金)～
農学部グラウンド		2月分	1月9日(水)～
検見川総合運動場	12月28日(金)～ 1月4日(金)		学内者 12月17日(月)～ 学外者 1月7日(月)～
保健体育寮	12月26日(水)～ 1月4日(金)		1月7日(月)～
二食地下プール	12月28日(金)～ 1月4日(金)		
御殿下グラウンド			
御殿下記念館	12月27日(木)～ 1月4日(金) 〔12月30日(日)を除く〕		運動部・Aクラブ優先予約 12月1日(土)～ Bクラブ第1順予約 1月1日(火)～ フリー予約 1月15日(火)～

問い合わせ先：学生部学生課体育第一掛（内線22509～22511）

（学生部）

## 山上会館・山上会館龍岡門別館の休館について

山上会館・山上会館龍岡門別館では、下記のとおり休館とさせていただきます。

休館日：平成13年12月28日（金）～平成14年1月6日（日）

## 広報センターの休館のお知らせ

広報センターは、年末年始のため、次の期間休館します。

平成13年12月28日（金）～平成14年1月6日（日）

## ハラスメント相談所の業務休止について

ハラスメント相談所は、下記期間相談業務を休止させていただきますので、お知らせいたします。

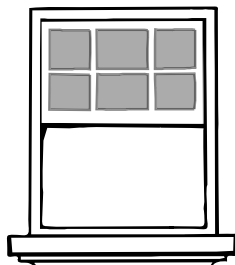
平成13年12月25日（火）～平成14年1月7日（月）  
（ハラスメント相談所）

≡ 窓 ≡

## 高度技能者に贈られる「かわさきマイスター」を授賞

川崎市は10月16日、極めて優れた技術や技能をもつ川崎市在住の市民に与えられる称号「かわさきマイスター」の今年の認定者5名を発表し、翌17日の読売新聞に受賞者の顔ぶれが紹介された。その中の一人に物性研究所の共通研究施設・工作室の今井 忠雄文部科学技官が認定された。今井さんは研究者のニーズに合わせた様々なガラス実験器具、特に極低温に耐えられる特殊ガラス容器を製作し、先端的な研究に寄与したことが評価されたものである。

同氏の経歴をさかのぼること40数年前、広島から上京し、日本電気真空硝子（株）でガラス工となり真空管の製造を手がけた。時代は真空管からICへと移っていくとともに、ゲルマニウム結晶を作る時に使われる“るつぼ”や“ポート”を石英で作ったり、IC接続用の数ミクロンの細いガラス管の中に金線を通したキャピラリーの作成、炭酸ガスレーザーが工業用に使われるようになるとその作成にも従事した。昭和53年から物性研究所に移り、研究実験室で使われている液体ヘリウム研究用魔法瓶や特殊ガラス容器の製造で低温物性研究を支えるとともに、また主に化学研究室でのガラス配管作業の需要の多い時代を経て、現在は石



英やアルミナの加工技術を通して物性研究をサポートしている。日本の工業技術の発展、基礎研究の発展過程の現場を一貫してガラス工技術を通して見続けてこられ現在に至っている。

なお、「かわさきマイスター」の認定は今年で5年目で、東京大学からは初の認定者であり、去る11月21日認定式が行われた。



「かわさきマイスター」を授賞した今井忠雄氏

≡ 広報委員会 ≡

## 「淡青」第5号完成及びアンケートの実施について

皆様方のご協力のもと、広報委員会では「淡青」第5号を作成することができ、学内外へ広く広報しています。

今回、今後の紙面作りの参考とさせていただくため、読者の方々にアンケートを実施することとしております。本誌に葉書形式でアンケートを折り込んでおりますので、ご意見ご要望をお寄せいただくと幸いです。また、メールによるご意見も伺わせていただきたく紙面に掲載しておりますので、お気軽にお寄せください。



アンケート提出先：総務部総務課広報室

e-mailアドレス：kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

## ≪ 事務連絡 ≫

## 人 事 異 動 ( 教 官 )

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
13. 12. 1	KIRSCHVINK, JOSEPH LYNN	(採 用) 大学院理学系研究科教授	カリフォルニア工科大学地質学・惑星科学 分野教授
13. 12. 1	山 脇 昌 福 田 慎 一	(昇 任) 大学院医学系研究科助教授 大学院経済学研究科教授	大学院医学系研究科講師 大学院経済学研究科助教授
13. 12. 1	八 卷 良 和	(転 出) 宇都宮大学農学部助教授	大学院農学生命科学研究科附属牧場助教授
13. 12. 1	小 林 昭 寛	(併 任) 大学院法学政治学研究科附属ビジネスロー センター教授	経済産業省特許庁審判部上級審判官

## ≪ 訃 報 ≫

## 松村 明 名誉教授

本学名誉教授松村明先生は、11月22日(木)肺炎のため逝去されました。享年85歳でした。

先生は東京都の御出身で、昭和15年3月東京帝国大学文学部国文学科を御卒業後、国際学友会日本語学校教授、文部省図書監修官補、第七高等学校教授、鹿児島大学助教授、東京女子大学助教授、お茶の水女子大学講師・同助教授を経て、本学には昭和34年4月文学部助教授として着任されました。昭和37年4月には教授に昇任され、昭和52年4月停年退官されるまで本学文学部において研究と教育に従事されました。

また学外においては、学術審議会専門委員、民事行政審議会委員等を歴任されましたが、とりわけ昭和45年から平成3年まで国語審議会委員をお務めになり、送り仮名の付け方、常用漢字表、現代仮名遣い、外来語の表記という国語に関する重要施策の策定並びに改訂に尽力されました。

先生の御研究は江戸時代後半期の江戸において使用されていた言語(江戸語)の実態を明らかにし、また江戸語を母胎として明治以降の東京に行われている言語(東京語)がいかに形成されたか、その過程を解明されるものでした。その方法論は文献に見られる用例を厳密に検



討するもので、先生の主著『江戸語東京語の研究』はこの分野の研究者にとって必読のものとなっています。また、先生は幕末から明治にかけて日本人が外国語を学習する際に用いた辞書・文法書や、当時の外国人が日本語について研究した書物(洋学資料)に注目され、その中に見える当時の日本語の実態を中心に数々の研究を公にされました。

さらに先生は『大辞林』と『大辞泉』という二冊の国語辞書の編纂をされています。これらの辞書は収載語数いずれも22万語という大規模なもので、現代語の使用の実態を示すことに重点を置くという斬新な方針に基づくものですが、世の好評を得て広く使用されています。先生の学識がこれらの辞書によって広く社会一般に根付いていると言ってしまう過言ではありません。

先生は温厚でお優しいと同時に、学生に対してはそれぞれの個性と資質に合わせた的確な御指導をして下さいました。そのようなお人柄は門下生達の等しく敬愛するところでした。先生は80歳を過ぎられてなお、御自身の蒐集された膨大な江戸語資料、洋学資料を駆使しての御研究をお続けでした。学問研究への情熱を最後まで持ち続けられた先生を偲び、ここに謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げます。

(大学院人文社会系研究科・文学部)

## 既存不適格

東大の長い歴史を考えれば、キャンパスの中にさまざまな年代の建物が存在することは想像に難くない。安田講堂は1925年の竣工だが、1923年の関東地震（関東大震災）を耐えた建物もあるだろうし、講堂の裏側には1998年完成の理学部新1号館が並んでいて好対照を成している。しかし長い歴史ゆえの問題点というものもあり得るだろう。たとえば地震を研究するものの立場から見れば、すでに戦後五十数年が経過し、その間に建築基準法による耐震基準が1970年と1980年の二度改正されたという事実がある。基本的に耐震基準は新しいものほどきびしくなっているから、地震に対して1971～1980年の建物は1981年以降の建物より弱く、1970年以前の建物はさらに弱いということになる。建設当時のまま使っている分には違法ではないが、現在の基準に適合しないということでこうした建物は既存不適格という強烈な名前で呼ばれる。兵庫県南部地震（阪



七徳堂鬼瓦

神淡路大震災）の際には、既存不適格に被害が集中したことがいろいろな調査であきらかになった。

本郷キャンパスのある台地は、不忍池付近やかつてそこに流れ込む川だった根津周辺に比べれば地盤条件が良いのはたしかである。しかし、東京は関東地震以降、著しい被害を伴う強震動（地震による強い揺れ）を経験していないので、何も実証されたわけではない。また、キャンパスが大地震時の広域避難場所に指定されていることを考えれば、

既存不適格に対する耐震診断を全学的に実施し、順次、耐震補強を進めていくのが責務ではないだろうか。地震研究所は関東大震災を契機に、寺田寅彦・長岡半太郎などの建議に基づき設立され、長く安田講堂裏の建物を使っていたが、1965年に現在の弥生地区北端の建物に移転した。つまり、地震研究所は既存不適格である。大地震が発生したときに地震研究所が使いものにならないではお話にならないので、各方面の協力を仰いで長年努力を続けてはいるが、いまだ目処は立っていない。

（地震研究所・瀬藤一起）

（淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

〔次号の原稿締切〕

次号の学内広報（1228 1月23日発行）は、平成14年1月16日（水）午後5時の原稿締切になります。1月は、1回のみ発行となりますので、ご注意ください。

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

1226 2001年12月12日  
 東京大学広報委員会  
 〒113 8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号  
 東京大学総務課広報室 ☎(3811)3393  
 e-mail kouhou@adm.u.tokyo.ac.jp  
 ホームページ [http://www.u.tokyo.ac.jp/index\\_j.html](http://www.u.tokyo.ac.jp/index_j.html)